

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2894800032		
法人名	社会福祉法人関寿会		
事業所名	グループホームはちぶせの里せきのみや		
所在地	兵庫県養父市尾崎1319番地		
自己評価作成日	令和3年3月7日	評価結果市町村受理日	令和3年5月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ兵庫福祉調査センター		
所在地	尼崎市南武庫之荘2丁目27-19		
訪問調査日	令和3年5月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

木造平屋で季節ごとに変わる四季折々の景色を見渡せるくつろぎの空間があり、敷地には桜の木、畑、グランドゴルフ場やテラスでゆっくり日向ぼっこが出来る環境があります。一緒に寄り添いながら役割を持ち、出来る事を続ける事で認知症の進行予防につながっていると思います。入居者、家族の要望も聞きながら日々のケアを行い充実した日々が過ごせるよう会話を大切に取り組んでいます。又年間行事、日々の隙間時間をうまく使い外出や散歩、活動の場としています。又ボランティアの訪問や地域への行事に積極的に参加し、地域にある施設として気軽に訪問できるよう喫茶を開催しています。併設の職員との応援体制や法人全体行事を通じて交流も行き、災害時の訓練も隣接している事業所と合同で行う事により積極的に交流を図る様になっています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者と職員が一緒になって、地域との交流を進めてきた歴史の中で、地域住民も、施設に対する自然なかかわりができている。コロナ禍において、都会に出て行かれている家族との面会が困難な中、法人としてline facebook instagramで情報提供ができており、楽しまれている家族もある。また、法人が、3ヶ月に1回発行している機関誌「FIND」は、特養・ショートステイ・デイサービス・グループホーム等法人傘下の各施設の取り組み状況や特性が記載されており、施設での暮らしがよくなる興味深い読み物として、情報発信ができています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)		1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ノーマライゼーションの実現」「共に楽しみロモに喜び共に生きる施設づくり」「人に尽くし、人を愛し、人に愛される人材の育成」と理念にあげている。理念の意義も理解してもらうように研修や会議時、入職の際に職員へ説明している。	理念の実践に向けて、職員一人一人が年度初めに、具体的な目標として、資格取得や、運営に関する企画提案などを掲げており、各自の目標達成状況を確認するようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	畑作業のお手伝いに訪問してくれたり、野菜、花も家族や地域の方に頂いている。地域の行事、学校行事に積極的に参加している。中学生、高齢者ボランティア、精神知的障害者の雇用等も積極的に行っている。	コロナ禍において、対面しての地域交流が難しい中、畑のボランティアを継続くださる方とは、職員が対応できている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の区長、民生委員、家族代表の方に施設運営推進会議のメンバーであり、その場で認知症の理解や支援について話をしている。又キャラバンメイト養成講座も6名受講し講師として地域でサポーターも広め活躍していきたいと思っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月1回開催。意見を聞きサービス評価についても報告し質の向上に活かせる努力している。会議録は職員に回覧し改善点や意見も伝えるようにしている。参加できないメンバーへは議事録送付し意見を聞くようにしている。	通常開催ができない中で、従来の参加メンバーへ事前に内容を書面で案内し、意見をFAXで頂き、改めて、議事録を作成し相互に確認できるようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故報告(死亡・通院・入院に至るもの)については全て文書にて行政窓口にて即時報告している。苦情報告、入居に関する事などは運営会議を通じ、市地域包括支援センターに相談している。	県からは、コロナクラスター対策など注意喚起や消毒薬の補給についてのメールでの案内があった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	正しく理解する為に勉強会、研修を実施し意識統一や改善を図っている。玄関施錠は防犯の為に時間を決めて行うが後は開放している。防犯用センサーもあるが、入居者が出ない為に使用ではなく訪問の有無が分かるように使用はしている。	法人本部の生活安全会議において、身体拘束虐待防止委員会が、中心となり、毎月第3水曜日と、R2年8月30日・11月12日・R3年2月11日に研修会を実施した。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員共有の問題と捉え、互いの介護について見つけあい注意を払う体制作りを心がけている。又研修を行い事例等も参考に振り返りの機会を設け虐待が見過ごされないように防止に努めている。会議体でも月1回啓発や確認もしている。	職員間で、指摘し合うのではなく、相互に見守り合う雰囲気重視し、その都度、気になることがあれば、場を作って虐待や身体拘束につながっていないか確認し合い、助言できるようにしている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	施設内研修を行っている。加えて入居者の尊厳を保持すべくケアプランの「サービス内容」に反映しカンファレンス等で職員へ周知している。又成年後見制度のしくみについても学び入居者、家族にも制度についての相談等も受けている。	法人の特養に、研修担当者が配置されており、権利擁護・身体拘束・虐待防止マニュアル等を資料として準備し、グループホームにおいて年間2回研修が実施されている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に重要事項について説明している。家族、入居者の要望を聞いてケアプランにも繋げたり、いつでも相談できるよう信頼関係の形成に努めている。加算や看取り・重度化指針、自立支援、尊厳の保持についても説明している。	契約時においては、受診の仕方や入院時についての等、具体的な質問についても丁寧に説明している。制度変更に伴う内容については、書面を郵送し、電話でも詳しく説明できるようにしている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、カンファレンス時に家族や入居者に要望を確認、会議を実施している。又年1回満足度アンケートを郵送し意見を取りまとめて職員へも伝えている。運営推進会議や地域ケア会議に参加し意見の反映にも繋げている。	満足度アンケートについては、家族宛てに送付しているが、入居者18名中14名が意向把握が可能であるので、カンファレンスの際に、個別に意志確認ができるようにしている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2か月に1回の全体会議を開催し職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、月1回ユニット会議、各会議体でも事業計画の説明、評価も実施。法人でも年1回施設運営会議を実施し全職員参加している。個別面談も年1回実施している。	職員は、積極的に提案することができており、コロナ禍において外出ができない分、おやつ作りや、みそ・豆腐・こんにゃくなどの手作り企画を多く取り入れ、次の課題として、体を動かす事について検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回部門管理者と面談実施、年5日の有給取得、10年勤務者への表彰、祝い金、人事考課（個人目標）参考に個々の意見を聞き、都度相談体制を設けるようにしている。時間外労働をしないよう業務改善も積極的に考え実践している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部、内部での研修参加を推進している。参加できない職員にも共有できるように報告書提出後、現場職員にフィードバックできるようにしている。又自己学習の取組、グループホーム合同で質の向上を図る為に勉強会を実施している。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他市グループホーム連絡会に参加し情報交換を実施。外部研修参加時に他施設との交流を行い考え方や意識の改善が図るようにしている。事業所間で年2回合同外出や企画、勉強会実施しケア、業務、質の向上へ繋がる様に実施している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前、自宅へ訪問し生活の場を実際に確認する事からアセスメントを実施。法人独自のシートに記載し情報共有がPCで出来るようにしている。又職員にも出来る限り同行促し、家族や入居者との信頼、安心感に繋げるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自宅を訪問したり施設に来て頂き不安や困っている事、将来への思い等聞いている。また事業所の説明や認知症、精神疾患の方に対するケア等細かく都度状況に応じて説明をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、出来る限り本人、家族の状況を把握し何を望むのか支援の方向性を話合っている。ケアプランにはこだわり、家族、本人にわかりやすくニーズを具体的に記載している。又状況に応じてどのサービス利用が必要かも助言している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は実施して頂き日常生活の中で役割をもって自尊心が増すように支援している。家事全般、畑作業時は入居者に聞きながら実施している。性格、生活歴から出来る事を伺い活動に繋げている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的な電話連絡、訪問時に様子を伝え職員と家族が同じ認識をもてるように努めている。家族の要望も聞きつつ疎遠にならないようにしている。オンライン面会も活用している。毎月写真付きお手紙で様子を伝えている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いきつけの美容室へ行ったり家族以外の友人も気軽に訪問されている。アセスメントでは生活史の情報収集にも力を入れている。入所後も外出、外泊等要望に応じて適宜実施している。地域行事へも積極的に参加している。	リモート面会は、機器の使用について不慣れな家族には難しい点もあるので、毎月ごとに、一人づつの様子が分かる写真を載せたお便りを送っている。法人では、line/facebook/instagramで情報提供し、楽しまれている家族もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職人が個々の思いや性格、関係性も見ながらお互いが支えあい協力し助け合える様間に入り、役割を持ち一緒に出来る環境作り、関わりが持てるように工夫している。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時病院SWと連絡をとり状態確認を適宜行っている。又退所後も行き先へ訪問したり、相談援助も行っている。法人で連携をして重度化になっても可能な限り最期までお世話させて頂く事を目標としている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃本人の言葉を聞く事を大切にCFも出来る限り本人含め要望や思いを確認。意思疎通が困難でニーズが言語化できない方については生活状況やアセスメント、モニタリングし家族や職員と情報共有し思い、希望をかなえられるように心がけている。	施設でも我が家と変わらない生活の継続を尊重し、対応するようにしている。自分用の新聞を購読されている人は4名あり、好みの週刊誌を購読されている人もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅時の暮らし、生活歴等本人、家族、担当CMにも聞きアセスメント実施、ADLだけに拘るのではなく精神面に目を向け情報収集しこれまでの暮らしと対比しながらより良い暮らしが入所後も出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式の記載、再アセスメントを実施、担当職員は1ヶ月にモニタリング記載を行いカンファレンスも本人の声を聴きニーズとしている。記録内容も精査したり、毎日ユニット内で送りする時間を持ち情報共有図っている。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	初回CFは家族、本人、看護師、職員とカンファレンス実施出来る限り行い意見や要望をプランに組入れている。	入居時の状況把握は、家族・本人と管理者・計画担当者、看護師で行い、入居後は、ケース担当者の実態把握と日々の処遇を通じて得られた意見・要望などを介護プランに組み入れ、推進に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録に残し変化時や重要な事は口頭で送り、メールで情報共有している。1日1回ユニット職員間で情報共有等の送りを10分程度で実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の外出、外泊支援の対応は柔軟に対応している。又個別の要望で外出希望、買い物支援なども適宜実施している。活動や行事、レクリエーションの場に生まれるニーズに対応している。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の子供神輿が毎年ホームに立ち寄ってくれたり、地藏盆の団子を持参してくれたり小学校、中学校より花や野菜を頂く事があります。地域の方のボランティアも訪問してくれている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携を深め職員や看護職員の応援にて定期的に通院、薬診、往診あり。近隣の家族には受診の依頼も行って頂き関係性が途切れない、本人の状態もわかって貰うように対応もしてくれている。	入居前からの関係性もあってかかりつけ医へ家族の協力でかかっている方は1名。他の方は、協力医療機関への受診で問題なく対応できている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診時には状態伝え情報共有を行い連携を取っている。オンコール、受診対応、処置、薬の管理等以外でも看取りに対する勉強会、感染症予防の取組、勉強会なども実施している。又日頃の介護ケアにも支援している。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時養父市独自の情報提供書によるシート記載し連携を図っている。入院後も状態確認をSWや家族と適宜行い法人内連携をとり可能な限り早期退院、受け入れ場所、体制を整えるようにしている。又救急対応時の延命治療について要望確認書にて入所時説明を行うようにしている。	養父市ケアマネジャー会にて誰もが把握しやすい共通の情報を記載できるように所定のシートを利用している。入院時に病院SW、ケアマネジャーとの情報共有に役立っている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	指針を掲げ入居時には説明を行い、状態に応じて適宜家族とCFを行って要望を確認している。又職員へも都度情報共有を行い本人、家族の思いに出来る限り寄り添い実践している。施設での看取りの方も増えており対応もしている。	この事業所には、非常勤の看護師が1名配置されている。入所時及び、状況が変化し重度化した時などには、本人、家族の要望を聞き随時カンファレンスを開催し状態に応じて対応している。看取り対応を施設で希望する方も増えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルは作成しており、年に2回勉強会やシュミレーションを行っている。対応時に不具合がなかったも都度振り返る機会を持つようになっている。器具の取り扱いや人形を使用した救急対応の研修も実施している。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルは作成しており、消防避難訓練年2回、災害訓練年1回法人と合同で実施している。災害時の備品の確認や調理方法も研修を行っている。地域防災マップも各ユニットへ掲示し自然災害時の対応にも意識持つように指導している。	災害、火災訓練を実施。訓練は2020年5月、10月に実施された。備蓄等災害時の対応は着実にされている。コロナ下において、消防の訓練時指導はない。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の尊厳、権利擁護については研修会を実施し会議体等を通じて常に啓発や話し合いを重ね不適切な言動があれば常に職員同士が注意しあうようにしている。プライバシーについては居室訪問時、入浴、排泄時には心理面に配慮し対応している。	入居者の尊厳と権利擁護について、日常的に研鑽を重ねている。講師は、特養施設長やリーダークラスの職員が務める。気が付けば注意し合う。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	家事全般、外出、買い物、散歩など日常生活の中で入居者の思いや要望を聞くようにしている。重度の認知症の方においても可能な限り言葉を聞くように配慮し自己決定を尊重し優先するようになっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活歴に着目し自宅からの生活リズムや思いを大切に出来る限り個別の対応が出来るように心がけている。又入居者中心の暮らしであり業務中心型介護にならないように指導している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月要望を聞きながら理美容を利用している。又起床時、外出時、入浴時にも衣類を選んで頂きご自分で調整されたり好みの身だしなみを日常生活の中でも支援できるようにしている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査年1回行い、行事、誕生日に要望を聞きながら季節の食材や収穫した野菜を使用している。月1回希望昼食日を決めてメニューを決めたり、年間食事企画、おやつ作り等適宜行うようにしている。調理も毎日役割をもって実施している。	隣接特養で一括調理でなく、事業所として独自に毎食を職員がつくり提供している。おやつ作りもしている。入居者の参加もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、摂取量、水分量も記録の残し平均水分摂取量の報告も行い状態に応じたケアを実施。栄養スクリーニングも年2回実施し、栄養状態、心身状態の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎月1回歯科衛生士訪問あり口腔内の確認、ケアの助言あり、不具合あれば歯科受診の対応もしている。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表記入し個々の排泄パターンや状態に応じたケアを実施。パットの使用状況を知り出来る限り失禁に繋がらないよう声かけ、誘導を行っている。陰部洗浄、おしりふき、清拭で生活保持できるように対応もしている。	排泄介助を拒む人もないが、おむつの人も少なく、自分からトイレに行く人が多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バナナ、ヨーグルト、牛乳、冷たい水等摂取してもらったり、運動を取り入れ予防に取り組んでいる。又状況によっては医師に相談し便秘薬を処方して頂くなどしている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2～4回を目安に本人の体調や希望に応じて入浴や清拭の支援をしている。拒否の強い方へは職員を変えたり無理強いせず時間や日にちを変更するなど柔軟に対応している。浴室の環境改善も実施計画中である。	普通の家庭風呂を使用。入浴については、本人の希望を聞く。週4回の人もあるなど適宜調整もする。状態に応じて入浴方法、回数も対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を大切に、日中、夜間共に休息したり安眠できる環境や温度等にも気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の理解や把握は既往歴を知り情報共有している。誤薬にならないように日付、名前の確認、手渡す時に読み上げ薬セット時には複数の職員で確認している。変化ある際は看護職員や主治医へ報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	力量に応じて生活の中で役割をもって頂く事が出来るよう対応している。又誕生日や行事、日々が退屈せず活動の場で役割や楽しみをもつ時間が作れるように支援しています。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の状況や天候も見ながら適宜外出、散歩などを行っている。本人や家族の希望の際は外出、外泊もされている。	豊かな自然に恵まれた地域であるが、外食に出るなどはコロナ後できていない。小人数での散歩はしている。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭をもっていない不安になる方やこれまでの自分の役割も含め、ご本人が理解でき管理できる方は金銭も持っている。又入居者の要望時は買い物に出かけ支払いも出来る方はその都度見守り行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話保持している方は操作方法や電話を見て職員介入しながら対応している。家人からの電話もご本人と話ができるよう対応したりオンラインの面会も活用している。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニットの大きな窓から外の景色をみて四季を感じる事が出来る。共用の室内は清潔を心がけており美化、5S3定の取組に力を入れている。入居者が自由に使える物も見える化してわかるように工夫もしている。季節に応じて壁画や飾りも変え、写真や案内も掲示している。	居心地の良い設計がされた共用空間である。清潔を心掛けている室内空間の美化と入居者と作った装飾や展示が見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々が思い思いに過ごせるようにお互いに距離をもって過ごせる場所となるようにテーブルの位置、席を配慮したりソファの位置を変え環境的配慮を行っている。入居者同士のトラブルに対しては職員が精神面のフォローを行うようにしている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や装飾品、思い出の物等自由に持ち込んで頂いている。個々の入居者担当職員を持ち一緒に掃除や整理整頓、リネン交換等行い環境を整えるようにしている。	居室の備品や持ち込み家具等の配慮がされた上に、清掃や環境整備がされている。共にする人も多い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	木造でよいが季節に置いて湿気等で扉が重くなったり不具合はあるが怪我に繋がる事はないように環境確認はしている。感染症予防の為に空気清浄機も設置。家庭的な雰囲気や壊さず混乱を防ぐ為声かけの工夫や表札設置もしている。		

基本情報

事業所番号	2894800032
法人名	社会福祉法人関寿会
事業所名	グループホームはちぶせの里せきのみや
所在地	養父市尾崎1319番地 電話079-667-3110

【情報提供票より】令和 3 年 5月12 日事業所記入

(1)組織概要

開設年月日	平成21年8月1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤11人 非常勤6名 常勤換算13.5人	

(2)建物概要

建物構造	木造平屋作り 1階建ての1階部分
------	---------------------

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	水光熱費 500 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (50,000円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 900円		

(4)利用者の概要(3月31 日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	8 名	要介護2	5 名		
要介護3	5 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88.6 歳	最低 68 歳	最高 99 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	福井診療所 公立八鹿病院 関宮歯科診療所
---------	----------------------

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び第三者評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	20	コロナ渦の中で、家族、知人の面会が出来ない状態となっており、オンライン面会を勧めているが、利用する人もまちまちであり、家族様との関係性の構築に課題が出来つつある。	家族様との関係性の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・家族宛に担当者、施設からお便りを引き続きお渡しする ・定期的に家族へ連絡をする ・オンライン面会を更に勧める 	1年間
2	35	災害・火災訓練など地域の方も一緒に訓練ができる機会を作る。	<ul style="list-style-type: none"> ・特養職員との合同消防避難訓練の継続 ・火災だけではなく災害も地域の消防団や地区の方と一体的な訓練を実施する 	<ul style="list-style-type: none"> ・併設している施設であり、事業所間の設備や職員間との連携を図り、いつでも応援体制がとれるようにする。 ・災害時、防災時など地区の訓練や避難場所などの再確認を行い、当事業所がどのように対応すればいいのかも連携を図る。 ・マニュアルの再確認 	1年間
3					
4					

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。

(様式2(2))

サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】	
実施段階	取り組んだ内容 (↓該当するものすべてに○印)
1 サービス評価の事前準備	<input type="radio"/> ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者へサービス評価について説明した
	<input type="radio"/> ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
	<input type="radio"/> ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
	<input type="radio"/> ⑤その他()
2 自己評価の実施	<input type="radio"/> ①自己評価を職員全員が実施した
	<input type="radio"/> ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
	<input type="radio"/> ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
	<input type="radio"/> ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
	<input type="radio"/> ⑤その他()
3 外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/> ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
	<input type="radio"/> ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
	<input type="radio"/> ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
	<input type="radio"/> ④その他()
4 評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/> ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
	<input type="radio"/> ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ⑤その他()
5 サービス評価の活用	<input type="radio"/> ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
	<input type="radio"/> ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
	<input type="radio"/> ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
	<input type="radio"/> ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
	<input type="radio"/> ⑤その他()